

③ [1] (18C、独 哲学者) — [2]主義 ([2]思想) の完成者

cf. ドイツ [3]論 (哲学)

…カントにより確立され、フィヒテを経てヘーゲルによって大成

(1) [4]哲学…理性 (ア=フーリオリ「先天的」にもつ) を検討・吟味

1 [5]([5])理性…認識可能な感性の世界を扱う 『[6]批判』

2 [7]理性…認識不可能な対象 (自由意志や神 etc.) を扱い、  
道徳法則を発する良心 『[8]批判』

∴ 1 < 2

(2) 認識論…認識は [9]性 (A) と [10]性 (=理論 < 純粹 > 理性) (B) が協働

∴ 経験論と合理論の統合

A は、経験論的な感覚の力 (受動的) ∴ 素材を受け取る

cf. 「[11]自体 = 世界の全体像」は、認識不可能

B は、合理論的な分析・判断の力 (能動的) ∴ 素材を整理する

cf. [12]的転回…認識主体に能動性をみる

(「認識が対象に従う」のではなく、対象が認識に従う」)

コペルニクス以前の天動説 = 誤った世界観のたとえ 地動説 = 正しい世界観のたとえ

∴ 「認識者 = 人間」には、「対象 = 事物」にはない尊厳がある

(3) [13]法則 ([13]律) …自ら (実践理性) が立て、それに従う

1 [14]命法 (無条件・絶対に「～すべき」 = 当為)

比: 仮言命法は逆

cf. [15] (個人の行動原理) イコール普遍的律法の原理

2 自由論

[16]…自分が命じたことに従うことが真の自由 cf. ルソー (18C、仏) の影響

[17]説…結果よりも、動機としての [18]意志を重視

(4) [19]論…人格に人間の尊厳がある

cf. 「汝の人格および他者の人格を、常に同時に目的として扱い、  
決して単に手段としてのみ扱わないこと」

(5) [20]の王国

…個人間で自他の人格が尊重される道徳的理想社会

→ 『[21]論』で国際社会にも応用

ex. 国連の構想

∴ 国家間で自他の主権が尊重される道徳的理想社会としての国際社会

MEMO etc.